

全国自治体のインフラメンテナンス 見える化について

全国自治体のインフラメンテナンス見える化の方向性

目的

**市町村別のデータを用いて、インフラメンテナンスに関する実態を
見える化**

(例：インフラの量・質、予算、自治体の体制、地元事業者の体制、メンテナンスの取組状況 等)

- ① **各自治体に危機意識を自分事化してもらう(職員、住民等)**
- ② **全国自治体の全体像から群マネのターゲットを抽出する**

想定される 活用シーン (例)

- ・ **自治体職員が住民等へ説明する資料**

⇒他の自治体と比較したランキング、レーダーチャート、マップ 等

- ・ **自治体職員が施策検討する際の判断材料**

⇒近隣自治体の状況を踏まえた連携方策の検討 等

- ・ **自治体類型に応じた手引きの作成**

⇒自治体を類型化し、各課題に応じた処方箋を提示 等

* 分析フロー(イメージ)

活用可能な
市町村別データ
の整理

自治体規模別の傾向分析
(指標のマクロ分析、
散布図分析 等)

各自治体の強み・弱みの
見える化

使用するデータ一覧

○ 市区町村別にインフラメンテナンスの現況を分析可能なデータとして、以下をリストアップ。

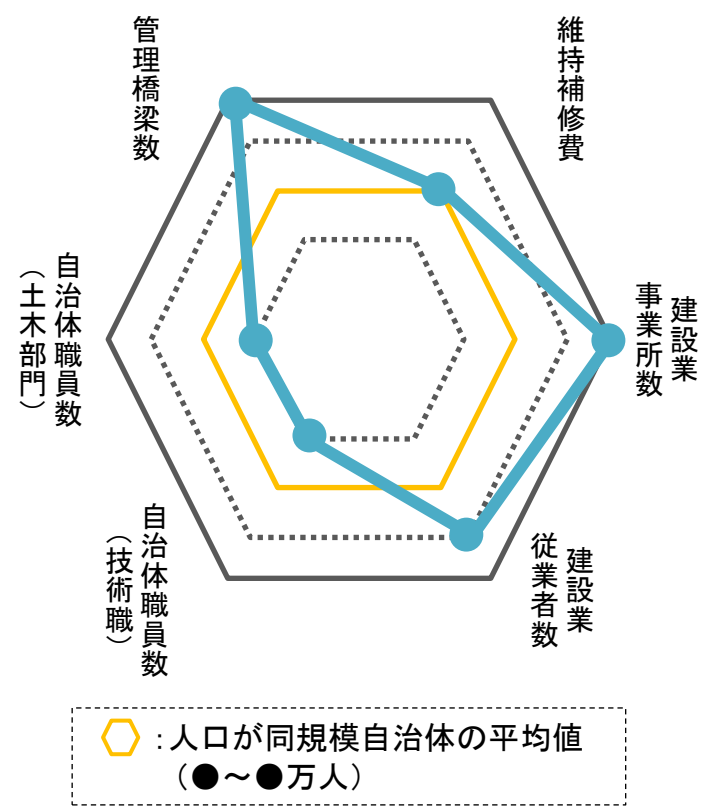
視点	データ項目	データ出典
①インフラの量・質	- 道路橋梁数(建設後50年以上経過) - 道路延長	道路局:道路橋点検結果データ 総務省:公共施設状況調査
②予算	維持補修費(道路橋りょう)	総務省:地方財政状況調査
③自治体の体制	- 技術系職員数 - 土木部門職員数	総務省:地方公共団体定員管理調査結果
④事業者の体制	- 建設業事業所数 - 建設業従業者数	総務省・経産省:経済センサス
⑤メンテナンスの取組状況	- 予防保全への移行(措置率) - 新技術活用 - 国民会議への参画 - 包括的民間委託 - 集約再編 など	国交省:インフラ長寿命化計画(行動計画)のフォローアップ

○ 自治体職員等が自分のまちのデータを出力できるよう、Excelデータやカルテ様式を公開予定。
※人口規模が同程度の自治体の平均値と比較。

(イメージ)

インフラメンテナンスレポート(仮称)【●●市】

指標分析



取組ステータス

修繕措置率	新技術活用	国民会議の参加
包括的民間委託	...	...
...	...	...

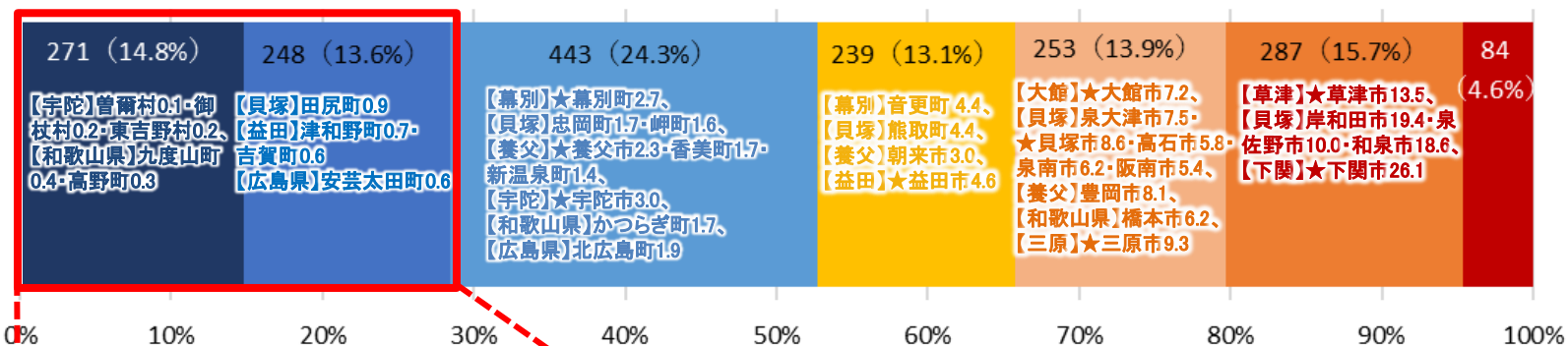
自治体の人口規模分析

- 全国自治体の人口規模をみると、約半数(962団体)が3万人未満、約3割(519団体)は1万人未満。
- 2050年には、1万人未満が**約1.4倍**(218団体増加)、とりわけ5千人未満が**約1.8倍**(211団体増加)となるなど、小規模化が進むと予測。
- なお、各人口規模別(30万人以上除く)に、モデル地域の自治体が存在。

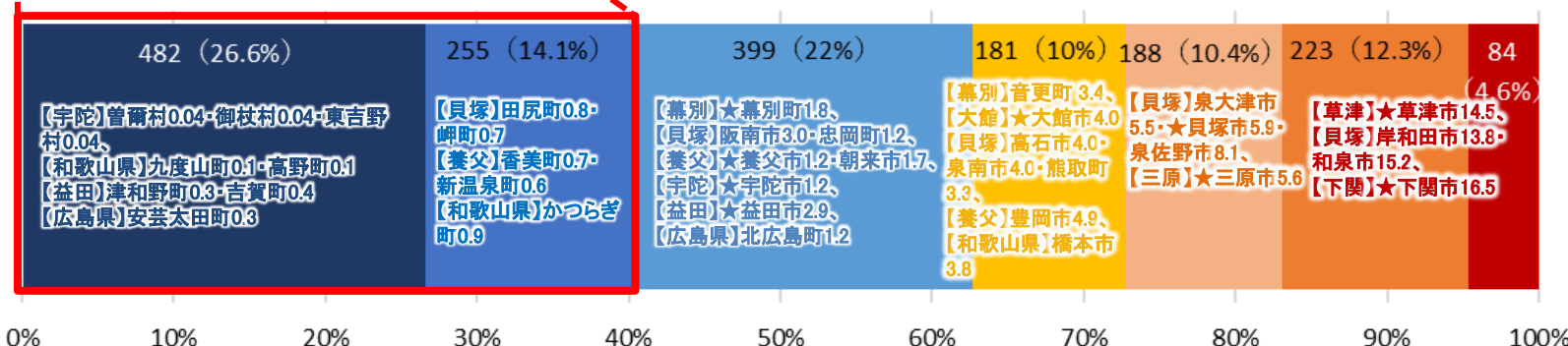
[人口規模別の市区町村数]

凡例 【モデル地域名】自治体名 ※★印は代表自治体

2020年



2050年

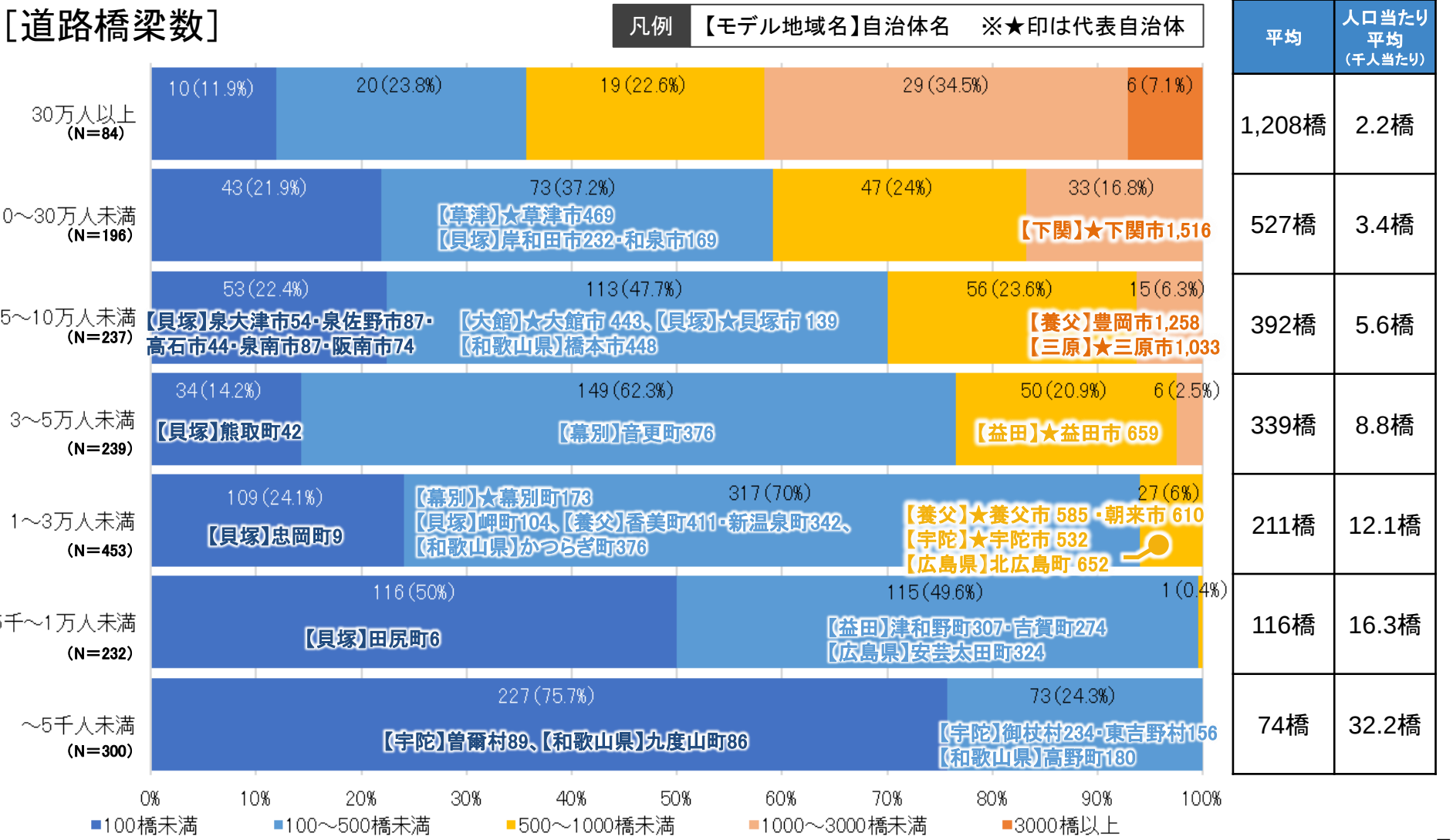


■ ～5千人未満 ■ 5千～1万人未満 ■ 1～3万人未満 ■ 3～5万人未満 ■ 5～10万人未満 ■ 10～30万人未満 ■ 30万人以上

○小規模自治体ほど管理する道路橋梁数は少ないが、**人口当たりで見ると多くなる傾向**。

○モデル地域のうち、**代表自治体は相対的に多い傾向**。

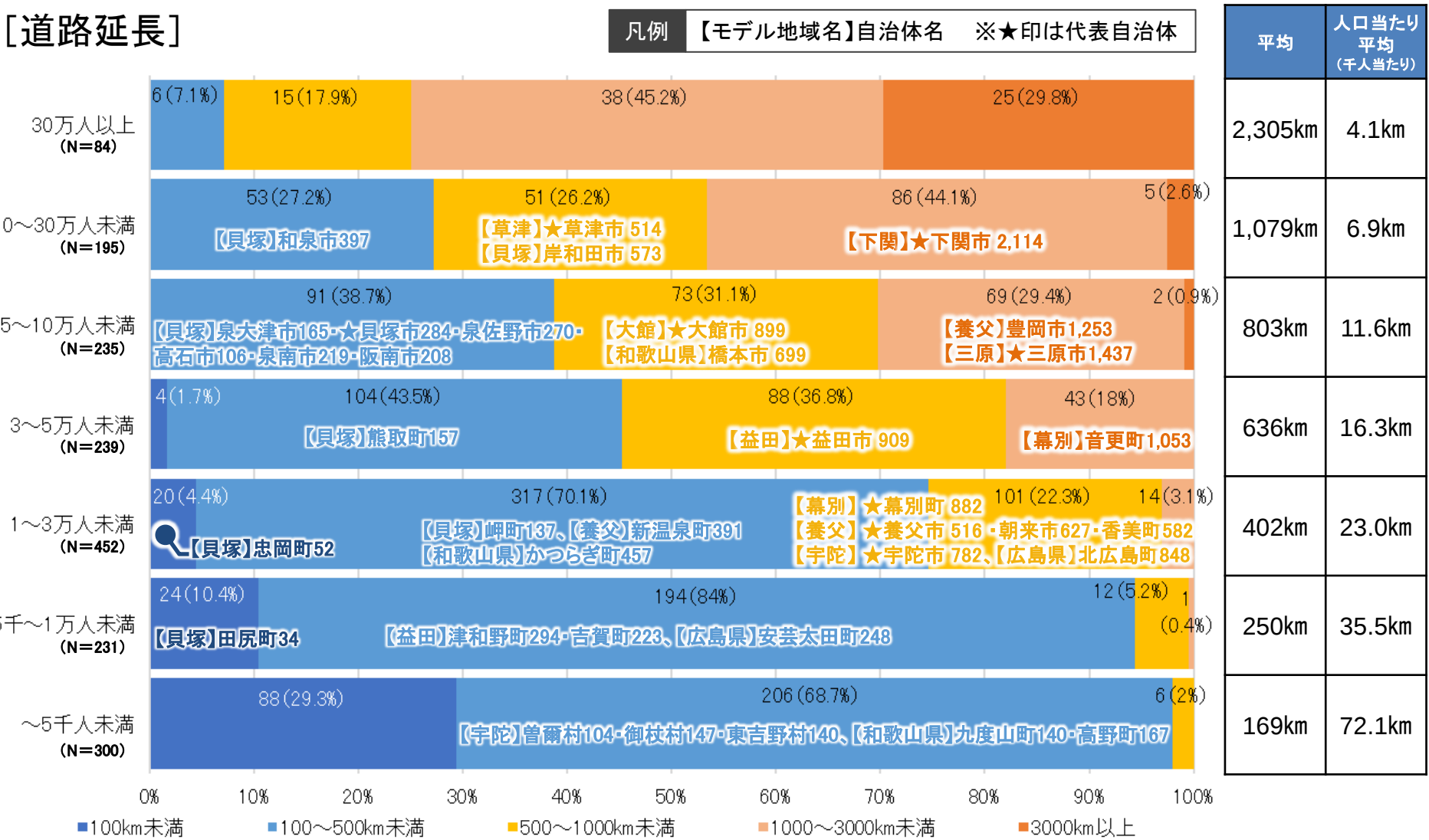
[道路橋梁数]



人口規模別の指標分析(①インフラの量・質:道路延長)

- 小規模自治体ほど管理する道路延長は短い、人口当たりで見ると長くなる傾向。
- モデル地域のうち、代表自治体は相対的に多い傾向。

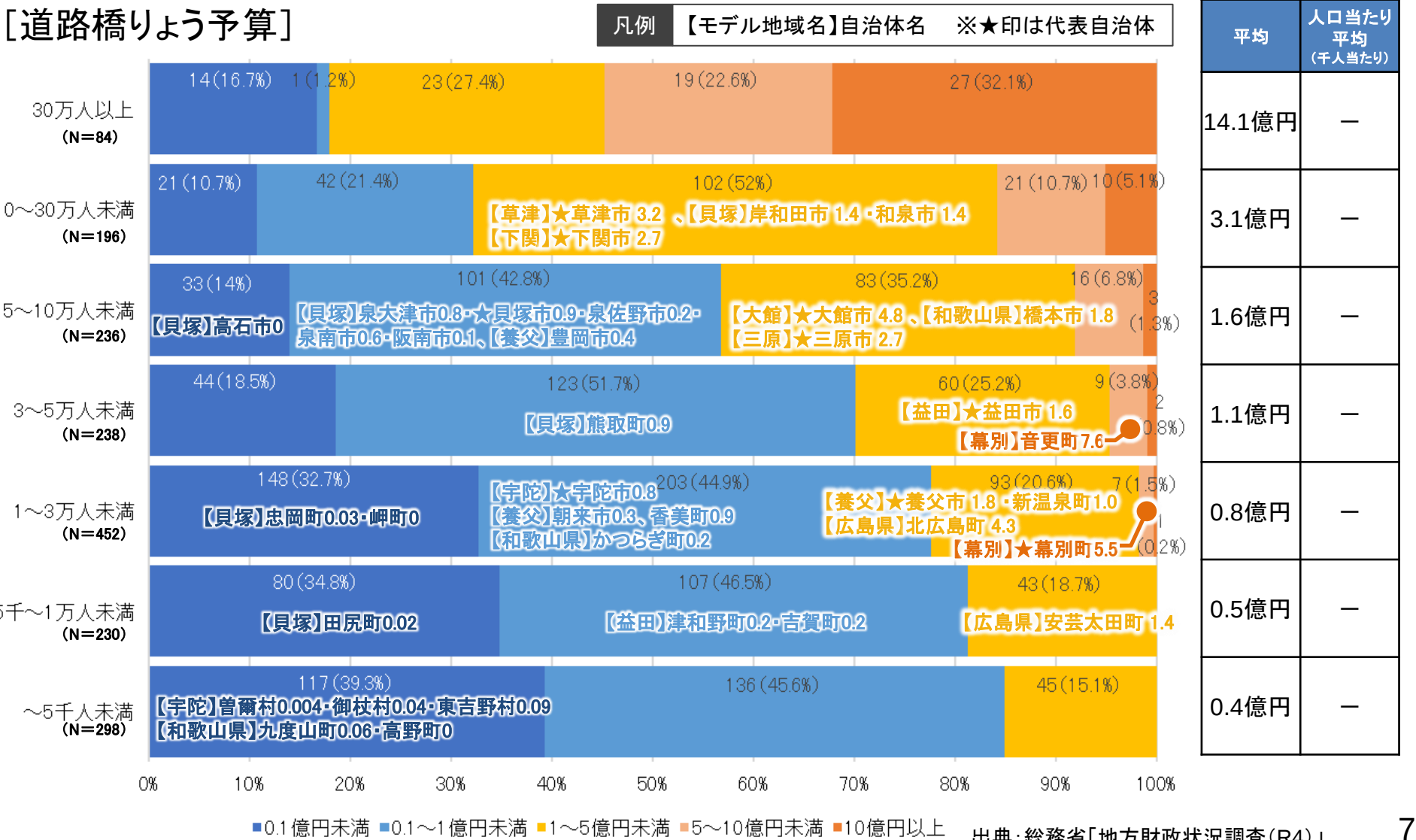
[道路延長]



人口規模別の指標分析(②予算:維持補修費(道路橋りょう))

- 小規模自治体ほど道路橋梁の維持補修費は小さい傾向。
- モデル地域のうち、代表自治体は相対的に多い傾向。

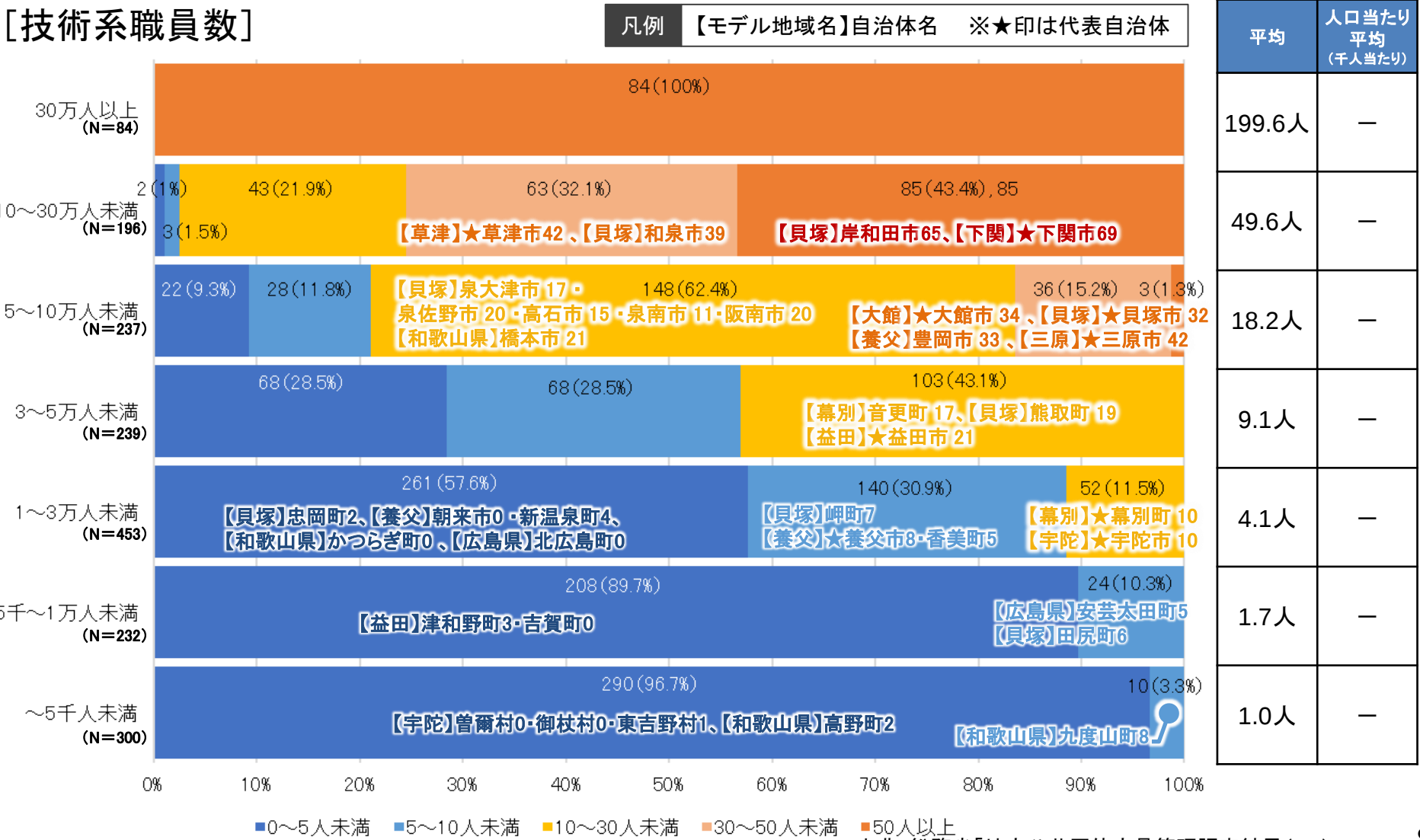
[道路橋りょう予算]



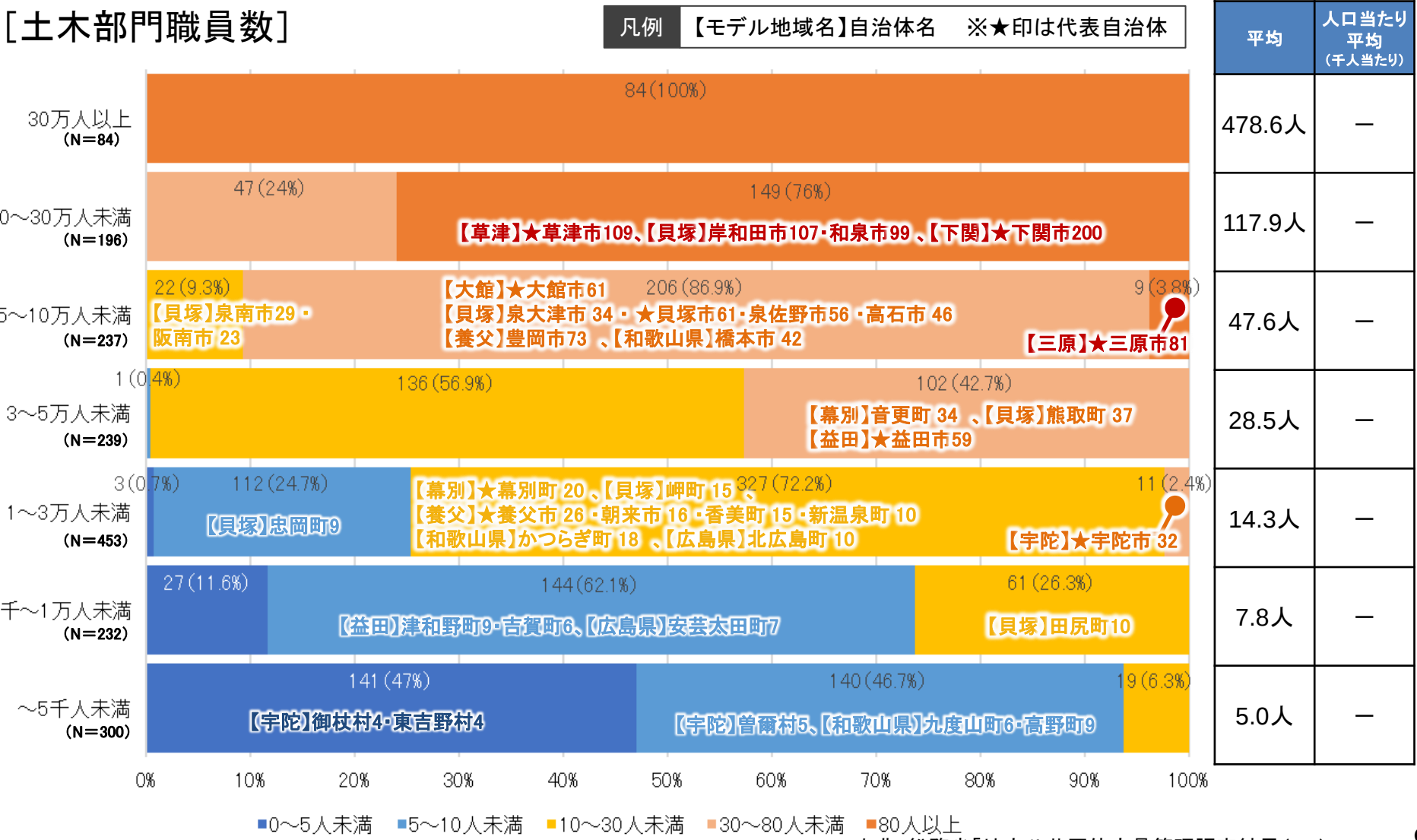
人口規模別の指標分析(③自治体側の体制:技術系職員数)

- 小規模自治体ほど技術系職員数は少ない傾向。
- モデル地域のうち、代表自治体は相対的に多い傾向。

[技術系職員数]

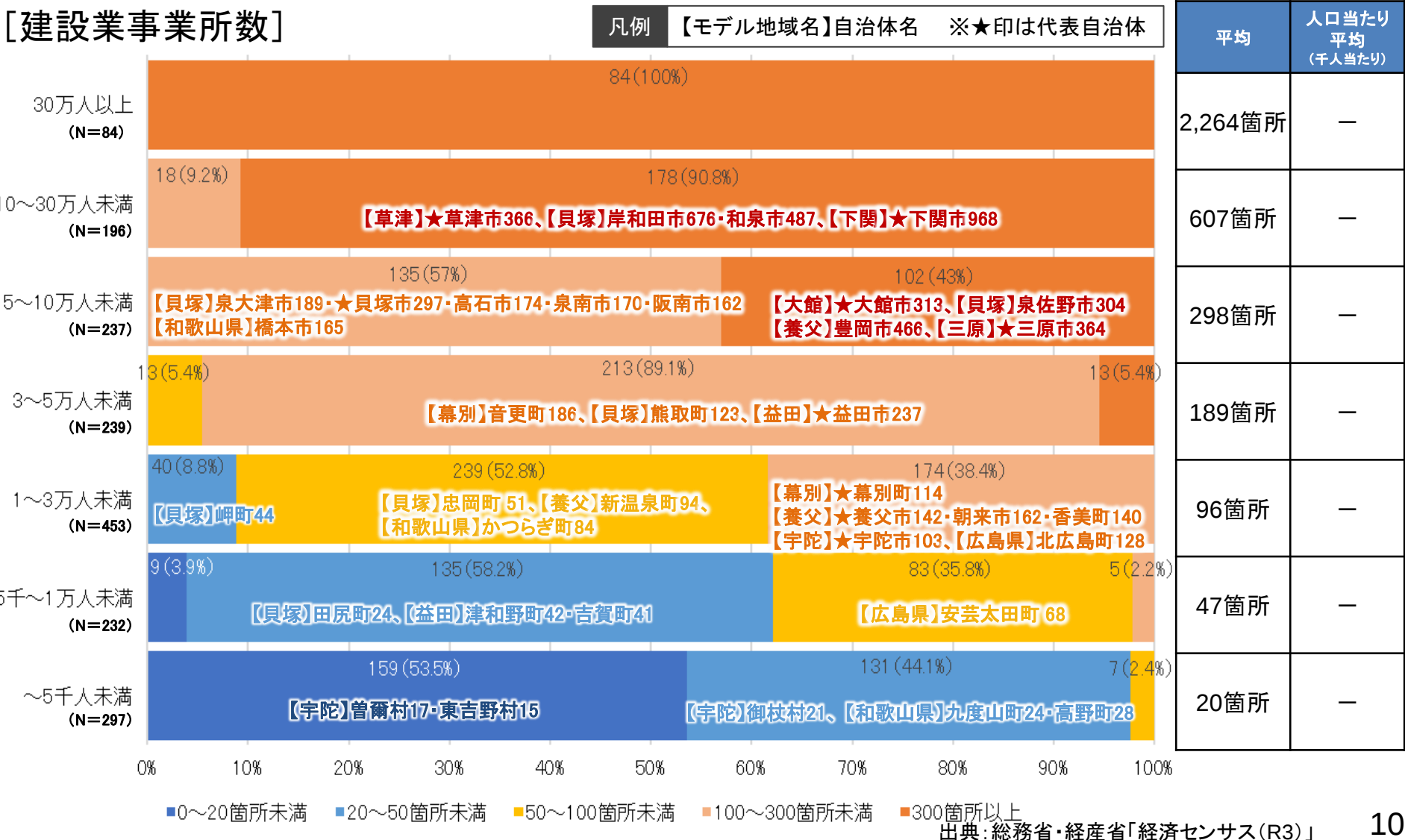


- 小規模自治体ほど土木部門職員数は少ない傾向。
- モデル地域のうち、代表自治体は相対的に多い傾向。



○ 小規模自治体ほど建設業事業所数は少ない傾向。

○ モデル地域のうち、代表自治体は相対的に多い傾向。

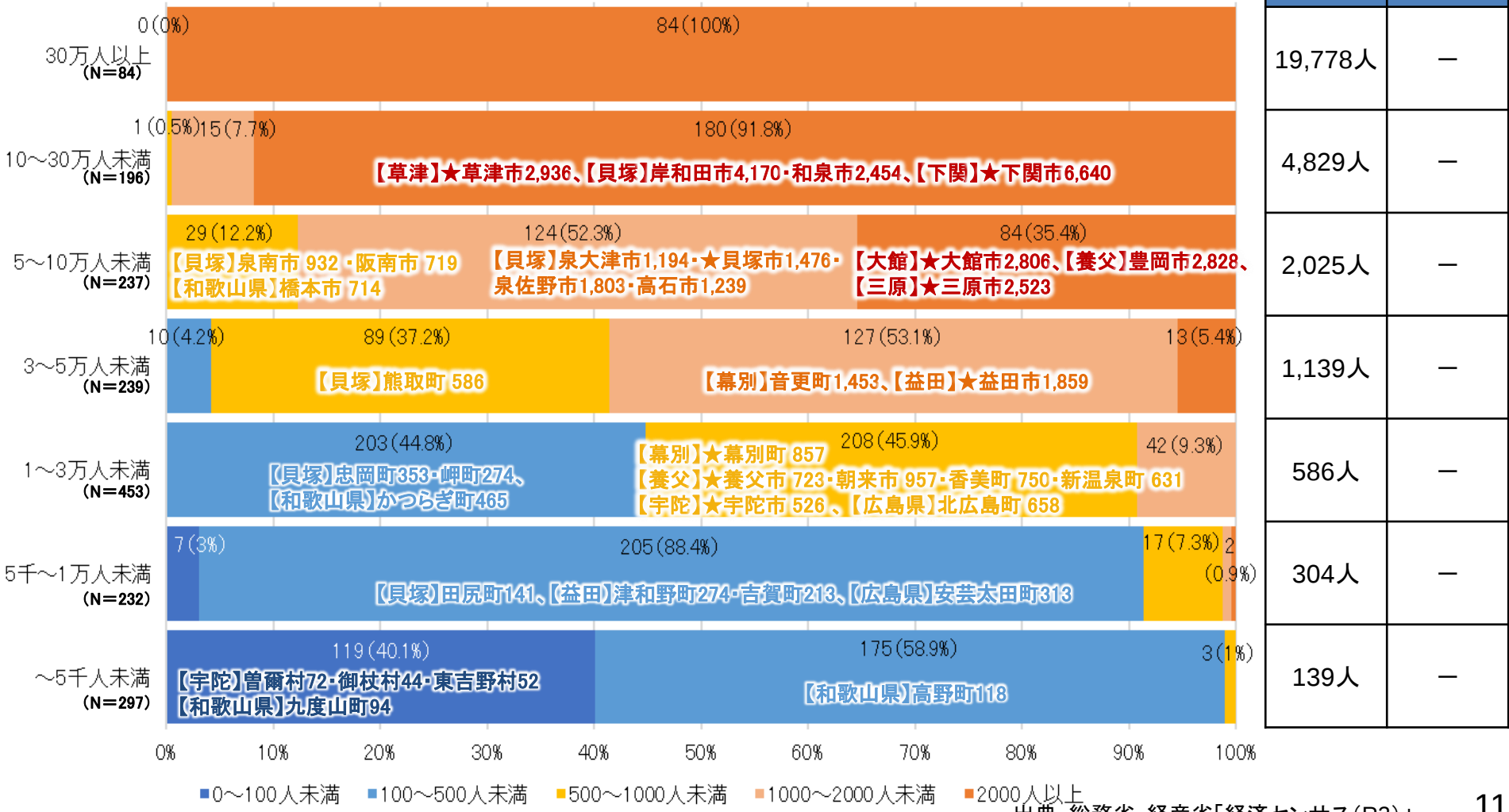


人口規模別の指標分析(④事業者側の体制:建設業従業者数)

- 小規模自治体ほど建設業従業者数は少ない傾向。
- モデル地域のうち、代表自治体は相対的に多い傾向。

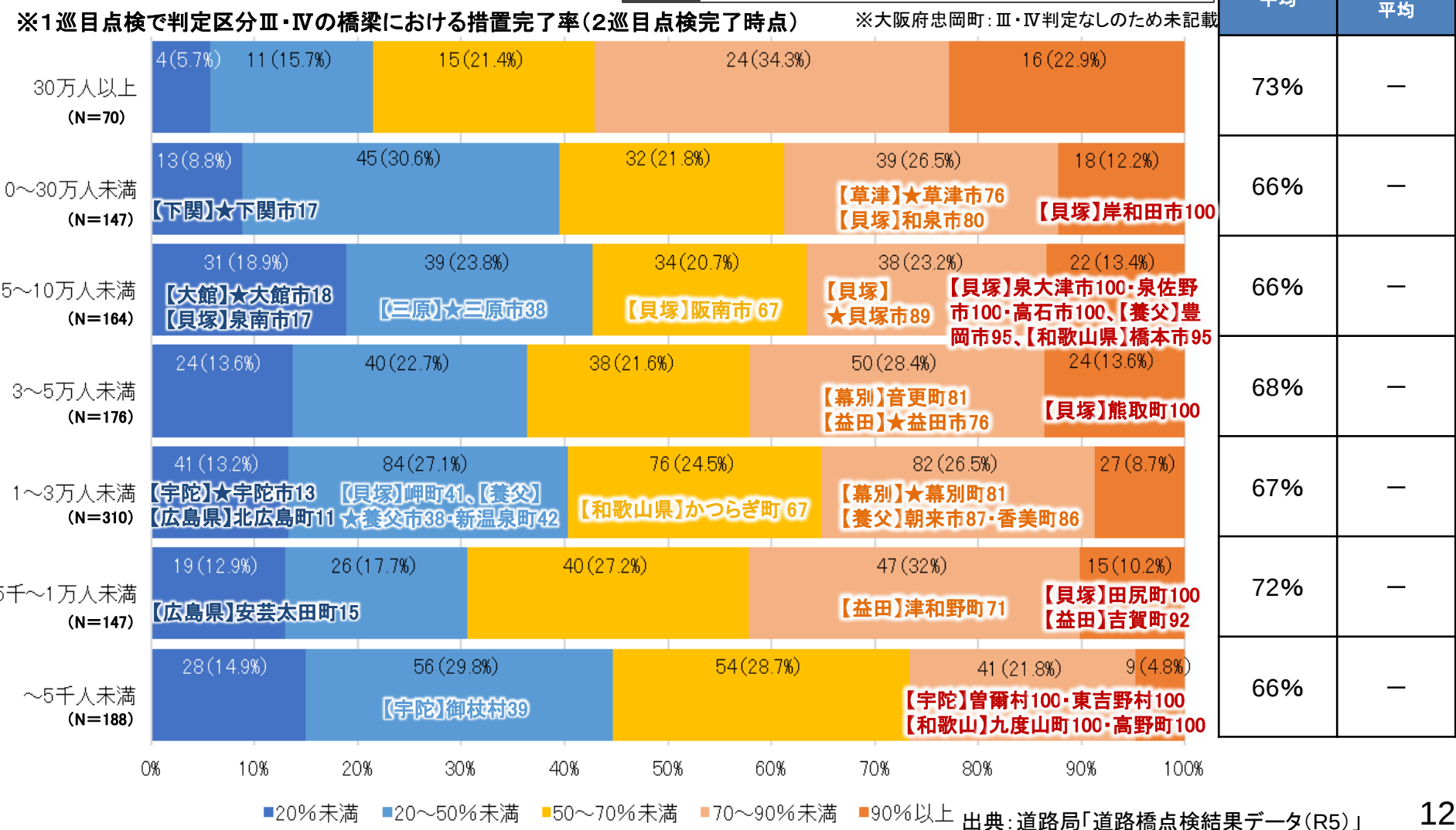
[建設業従業者数]

凡例 【モデル地域名】自治体名 ※★印は代表自治体



○ 橋梁の修繕等措置の完了率は、人口規模との傾向は見られない(管理する橋梁数や老朽化状況、予算規模等の様々な変数によって、取組状況に差が出ると考えられる)。

[橋梁の修繕等措置の完了率]



- 全国自治体の人口規模をみると、約半数(962団体)が3万人未満、約3割(519団体)は1万人未満。
- 2050年には、1万人未満が約1.4倍(218団体増加)、とりわけ5千人未満が約1.8倍(211団体増加)となるなど、小規模化が進むと予測。
- 小規模自治体ほど、人口当たりの道路橋梁数や道路延長は大きい一方、技術系職員数や土木部門職員数、建設業事業所数、建設業従業者数は少ない傾向。
- 人口規模が同程度のグループ内で比較すると、群マネモデル地域のうち、代表自治体は、技術系職員数や土木部門職員数、建設業事業所数、建設業従業者数が相対的に多い傾向。
- 橋梁の修繕措置率は、人口規模との傾向は見られない(管理する橋梁数や老朽化状況、予算規模等の様々な変数によって、取組状況に差が出ると考えられる)。